

槇原敬之の歌詞の数量的分析：

『君が笑うとき君の胸が痛まないように』から『Heart to Heart』まで

金城 克哉

0. はじめに

近年ではインターネットで音楽が購入でき、超小型音楽再生機器の登場によって、そのように購入した楽曲を文字通り「もって歩ける」時代となった。これまでにないほど、我々の生活の中には音楽が溶け込んでいる。それを反映するように、我々が親しんでいる楽曲の歌詞が言語研究の対象として取り上げられことも少なくない（『日本語学』（1996, 15号）所収の諸論文参照）。一人のシンガーソングライターの歌詞を分析した代表的な研究として伊藤雅光による松任谷由美の歌詞の一連の分析がある。しかしながらそれ以降、自ら作詞・作曲をし、なおかつ自分が作った歌を歌うシンガーソングライターの一連の歌詞を数量的に分析した研究は多くない（細谷・鈴木 2010）。本稿では 2012 年でデビュー 22 周年を迎える日本の代表的なシンガーソングライター槇原敬之のオリジナルアルバムの歌詞を数量的に分析することを目的とする。

1. 研究の背景とリサーチクエスション

歌謡曲の歌詞を分析したものに水谷 (1975)、中野 (1982a, 1982b)、鈴木・山口 (2000)、草間 (2002)、濱田 (2005)、山川 (2009) などがある。特に伊藤は一連の論文の中で松任谷由美の作品を分析し、コンピュータによって「ユーミンソング」を作成する試みもなされている (1998a, 1998b ほか)。いずれの研究もどのような語彙が歌詞に現れるのかの分析に焦点があるが、本稿の目的の 1 つは歌詞に用いられる語彙の種類を特定することにある。例えば中野 (1984)

は昭和 58 年の歌謡曲に用いられた語彙というように共時的な側面を取り上げ、草間 (2002) では 10 年間のラブソングにおける語彙の変遷というように通時的な姿を浮き彫りにするという内容となっている。その一方で一人の歌手、それも自ら作詞・作曲をし、また自ら歌うというシンガーソングライターの作品に現れる語彙を数量的に捉えて多変量解析を適用するという試みはそれほどなされているとは言えない。この後者の数量的視点から分析を行った先駆的な研究として水谷 (1975, 1980) があるが、本稿では水谷に倣い、語彙の数量的な側面から作品を分析することを主な目的とする。

楽曲を収めた 1 つのアルバムはおよそ 10 ~ 12 の作品 (= 曲) から構成されているが、本稿では、1 つ 1 つのアルバムはそれを成り立たせている作品群、さらには個々の作品に用いられる語彙によって特徴づけられると考える。例えば様々な楽曲を収めた 2 つのアルバム A と B がある場合、A は A を、B は B を成り立たせている作品に用いられている語彙によって特徴づけられると考えられる。そうであるならば、仮にアルバム A ~ F がある場合、それぞれのアルバム同士には用いられる語彙に似通った点と異なる点が出てくる。これを応用すれば似た者同士を [A, C, D] [B, E, F] などのようにグループ化できると推測する。一方、横原敬之の歌詞については「1999 年の 9th アルバム『Cicada』より前と後では歌詞の濃度が相違している」(町口 2005a:82) というような指摘がなされている。本稿では、このような指摘を踏まえ、(i) まず 17 のアルバムの語彙について全数調査を行い、どのような語彙 (主に自立語) がどの程度用いられているのかという語彙の数量的な側面を明らかにすることを第 1 の目的とする。次に、(ii) 歌詞に用いられる語彙を用いて横原敬之のアルバムがグループ化されるのか、もしグループ化されるのであれば、どのようなグループが形成されるのか、また (iii) それぞれのグループはどのような語彙によって特徴づけられるのか、という 3 つの点を調査・分析・論証していく。

2. 分析方法

今回は横原自身が作詞をした作品、それも日本語の歌詞が主となっている作

品を選定した（インストゥルメンタルの曲を除く）。カバーアルバムとベスト盤を除く全 17 アルバム、184 曲の歌詞をアルバムの歌詞カードを参照しながら入力し、データベースを作成した。（註 1）17 アルバムと収録曲一覧は表 1 の通り。

表 1 分析に用いたアルバムと曲名（註 2）

アルバム名	曲名		アルバム名	曲名	
君が笑うとき君の胸が痛まないように	1. ANSWER	1	PHARMACY	1. INVITATION (INSTRUMENTAL)	
	2. RAIN DANCE MUSIC	2		2. HOME WORK	43
	3. 80Km/hの気持ち	3		3. DARLING	44
	4. 12月の魔法	4		4. 2つの願い (VERSION II)	45
	5. 桜坂	5		5. LONESOME COWBOY	46
	6. CLOSE TO YOU	6		6. TWO MOONS	47
	7. NG	7		7. SPY	48
	8. FISH	8		8. 花水木	49
	9. 君を抱いたら	9		9. OCTAVERS	50
	10. 北風	10		10. 今年の冬	51
君は誰と幸せなあくびをしますか。	1. 君をなごませる			11. 恋はめんどうかい？	52
	2. 僕の彼女はウエイトレス	11		12. 東京 DAYS	53
	3. AFTER GLOW	12	UNDERWEAR	1. 男はつらいっすねえ	54
	4. Necessary	13		2. PENGUIN	55
	5. 満月の夜	14		3. どうしようもない僕に天使が降りてきた	56
	6. EACH OTHER	15		4. 君の自転車	57
	7. ひまわり	16		5. うん	58
	8. CALLIN'	17		6. I need you.	59
	9. 3月の雪	18		7. revenge	60
	10. 僕は大丈夫。	19		8. オオカミ少年	61
11. どんなときも。	20	9. THE END OF THE WORLD		62	
君は僕の宝物	1. INTRODUCTION			10. PAIN	63
	2. くもりガラスの夏	21	11. LOVE LETTER	64	
	3. もう恋なんてしない	22	12. まだ見ぬ君へ	65	
	4. 三人	23	Such a Lovely Place	1. うたたね	66
	5. まはたきの間の永遠	24		2. Fan Club Song	67
	6. てっぺんまでもうすぐ	25		3. Cleaning Man	68
	7. 雷が鳴る前に	26		4. モンタージュ	69
	8. 涙のクリスマス	27		5. 手をつないで掃ろ	70
	9. 遠く遠く	28		6. 素直	71
	10. 冬のはじまるよ	29		7. 情熱	72
11. 君は僕の宝物	30	8. 印度式		73	
12. 君は僕の宝物 REPRISE		9. 僕のものになればいいのに		74	
SELF PORTRAIT	1. 君に会いに行く	31		10. 足音	75
	2. No.1	32	11. Such a Lovely Place	76	
	3. さみしいきもち	33	1. Introduction for Cicada		
	4. 髪を切る日	34	2. pool	77	
	5. Witch hazel	35	3. Hungry Spider	78	
	6. 彼女の恋人	36	4. HAPPY DANCE	79	
	7. SELF PORTRAIT	37	5. Star Ferry	80	
	8. 困っちゃうんだよなあ。	38	6. 青春	81	
	9. MILK	39	7. STRIKE!	82	
	10. ズル休み	40	8. この傘をたためば	83	
	11. 雷に願いを	41	9. The Future Attraction	84	
	12. 猫がふんじやった	42	10. BLIND	85	
		11. Name Of Love	86		
		12. Cicada	87		

アルバム名	曲名	
太陽	1. 替罪	88
	2. キミノイトコロ	89
	3. PLEASURE	90
	4. 濡れひよこ	91
	5. I ask.	92
	6. WILD RABBITS	93
	7. 迷わない羊	94
	8. Going Home	95
	9. SIMPLIFY	96
	10. 太陽	97
	11. Ordinary Days	98
Home Sweet Home	1. Happy Birthday Song	99
	2. LOTUS IN THE DIRT	100
	3. 桃	101
	4. ファミレス	102
	5. You are so beautiful	103
	6. Are You OK?	104
	7. 天国と地獄へのエレベーター	105
	8. 1秒前の君にはもう2度と会えない	106
	9. 長生きしよう	107
	10. 君が教えてくれるもの	108
	11. Home Sweet Home	109
本日ハ晴天ナリ	1. AMAZING GRACE	110
	2. Wow	111
	3. 24hr Supermarket	112
	4. 縁	112
	5. 花火の夜	113
	6. 君の声を待つ夜	114
	7. これはただの例え話じゃない	115
	8. さよなら小さな街	116
	9. I got a friend	117
	10. 雨ニモ負ケズ	118
	11. 本日ハ晴天ナリ	119
	12. Turtle Walk	120
	EXPLORER	1. 優しい歌が歌えない
2. 夏は憶えている		122
3. TagTeam		123
4. 武士は食わねど高橋枝		124
5. Happy Ending		125
6. 君の名前を呼んだ後に		126
7. とりあえず何か食べよう		127
8. ハトマメ ～Say Hello To The World～		128
9. The Fog		129
10. 世界に一つだけの花		130
11. Boy I'm gonna try so hard		131
12. 僕が一番欲しかったもの		132

アルバム名	曲名	
LIFE IN DOWNTOWN	1 いつでも帰っておいで	133
	2 Naked	134
	3 ほんの少しだけ	
	4 星の光	135
	5 ウンチャカ	136
	6 月の石	137
	7 親指を隠さずに	138
	8 店じまい	139
	9 明けない夜が来ることはない	140
	10. キキライス	
	11 尼崎の夜空を見上げて	141
	12 ココロノコンパス	142
Personal Soundtracks	1. Introduction	
	2. 祈りの歌が聞こえてくる	143
	3. Dance with me.	144
	4. GREEN DAYS	145
	5. カイト	146
	6. Love was sleeping.	147
	7. lose no time	148
	8. 赤いマフラー	149
	9. Anywhere	150
	10. Circle of Rainbow	151
	11. 五つの文字	152
	不安の中に手を突っ込んで	1. Taking The Central Course
2. 幸せはタイヤを穿いてやってくる		154
3. Chocolats et Sweets		155
4. 君の後ろ姿		156
5. Orange Colored Sky		157
6. つま先立ちで(笑)		158
7. WE LOVE YOU.		159
8. Hey..		160
9. 僕の今いる夜は		161
10. Firefly ～僕は生きていく		162
11. The Average Man Keeps Walking		163
12. Merry-go-round '08		164
Heart to Heart	1. 夜空にピース	165
	2. 幸せの鍵を胸に	166
	3. 冬のコインランドリー	167
	4. ビオラは歌う	168
	5. フルサト	169
	6. YOU GOTTA BELIEVE	
	7. 不安の中に手を突っ込んで	170
	8. ムゲンノカナタへ～To infinity and beyond～	171
	9. In love again?	172
	10. おさらばだ	173
Heart to Heart	1. 二つのハート	174
	2. Jewel In Our Hearts	175
	3. 犬はアイスが大好きだ	176
	4. LUNCH TIME WARS	177
	5. 林檎の花	178
	6. Appreciation	179
	7. White Lie	180
	8. 風は名前を名乗らずに	181
	9. 軒下のモンスター	182
	10. Remember My Name	183
	11. 今日の終わりにありがとうを数えよう	184

また入力と言語単位認定に際して以下の点に留意した：

- (1) 1行あたりの文字数・語句の表記はアルバム添付の歌詞カードに従う。ただしリフレイン（歌詞カードで「※ repeat」となっている部分）は省略せず入力した。
- (2) 上記(1)に従い、同一語で異なる表記がある場合（例：「当たり前」「あたりまえ」）は統一せずに別々の見出し語とした。
- (3) KH Coder では形態素解析に茶筌を用いているが、言語単位認定は茶筌の辞書(IPAdic)に従った。それでも誤解析がなされる場合は、KH Coder で強制抽出語として単位毎に登録し解析に用いた（例：「濡れひよこ」は「濡れる」+「ひよこ」ではなく、「濡れひよこ」1単位として数える等）

語彙の構造が明らかになった段階で、立命館大学の樋口耕一氏によって開発された KH Coder を用いて頻度 30 以上の自立語 119 語（数詞・代名詞を含む）を抽出し、それぞれの語について 100 語あたりの調整頻度を求め、アルバムを変数、119 語をケースとして主成分分析と階層的クラスター分析を行った。主成分分析と階層的クラスター分析については KH Coder でも分析が行えるが、今回はエスミのソフトウェア『多変量解析 Ver.2.0 アカデミック版』を用いた。共起ネットワークの作図は KH Coder 付属の機能を利用した。

3. 結果

KH Coder の解析結果を元に、誤解析の部分を修正して自立語（名詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・感動詞）と英語語彙、そしてその他（助詞・助動詞・など）に語彙を分類した結果を表 2 に示す。またそれぞれの品詞の延べ語数と異なり語数の割合を円グラフで図 1 と図 2 にそれぞれ示した（英語とその他の語を除く）。5%とわずかではあるが動詞の延べ語数が名詞のそれを上回っている。これと関連して、延べ語数では副詞の割合が 13%と、形容詞や形容動詞を大きく上回る結果となった。これは程度（「少し」「ずっと」等）や確から

しさ（「きつと」等）に関わる語の頻度が多いことが要因となっている。また、全て英語の歌詞から成る作品は調査対象外としたが、日本語の歌詞に混ざって英語が延べ語数で1,176語も用いられているのは予想外であった。（註3）

表2 名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞の頻度表（上位50語）

	名詞	動詞	形容詞	形容動詞	副詞				
人	169	する	520	ない	179	幸せ	100	もう	94
自分	162	なる	334	悪い	52	好き	66	少し	78
心	132	いる	197	強い	46	大事	56	きつと	77
言葉	94	言う	162	いい	45	素敵	34	そう	77
気持ち	93	思う	153	優しい	44	大好き	25	ずっと	76
手	88	ある	126	嬉しい	32	不安	24	いつも	55
場所	86	見る	122	辛い	32	大切	22	どう	51
街	86	笑う	120	良い	26	必要	18	まだ	51
誰か	64	生きる	95	高い	25	当たり前	17	まるで	35
恋	60	知る	86	よい	25	きれい	16	とても	33
目	57	見える	57	遠い	22	輝か	15	初めて	30
山	56	信じる	52	悲しい	21	綺麗	15	ちょっと	30
胸	56	忘れる	52	白い	19	簡単	14	もっと	30
笑顔	49	わかる	51	早い	17	正直	13	必ず	27
愛	49	行く	50	小さい	16	素直	13	すぐ	27
一緒	46	待つ	49	赤い	16	急	12	ちゃんと	26
世界	45	感じる	46	長い	16	元氣	12	本当に	22
顔	41	変わる	45	うれしい	16	不思議	12	なんて	22
子供	40	見つける	44	嬉しい	15	特別	11	やっとな	21
神様	39	食べる	44	美しい	15	だめ	9	また	20
花	38	帰る	43	新しい	14	静か	9	もしも	17
歌	35	嘗える	43	冷たい	14	大丈夫	9	突然	16
事	35	探す	42	楽しい	13	あたりまえ	8	こんなに	16
風	35	歩く	40	痛い	13	駄目	8	さつき	15
声	34	生まれる	39	怖い	13	無理	8	もうすぐ	15
痛み	33	いう	39	寂しい	11	馬鹿	7	もう一度	14
気	32	つく	38	恥ずかしい	11	嫌い	6	心から	14
嘘	31	会う	34	近い	11	自然	6	どうして	14
雪	31	気付く	34	何気ない	10	無駄	6	やっぱり	14
道	31	泣く	34	青い	10	乱暴	6	たった	13
未来	29	出来る	34	無い	10	すてき	5	どんなに	13
空	29	抱きしめる	34	うまい	10	窮屈	5	こんなふうに	12
名前	27	終わる	33	遠い	10	孤独	5	そっと	12
友達	27	来る	33	暖かい	9	残念	5	もし	12
恋人	26	違う	32	欲しい	9	勝手	5	あまりに	11
意味	26	聞く	32	弱い	8	大変	5	ただ	10
星	26	できる	32	忙しい	8	普通	5	時々	9
髪	26	思い出す	31	明るい	8	平気	5	どうか	9
月	25	やる	31	すごい	8	いや	4	よく	9
光	25	教える	30	丸い	7	ダメ	4	もう少し	8
口	25	持つ	30	上手い	7	嫌	4	これから	8
背中	24	愛する	29	正しい	7	自分勝手	4	すこし	8
電話	24	かける	29	短い	7	上手	4	なぜ	8
車	24	決める	28	つらい	7	真つ赤	4	わざと	8
傘	23	考える	28	愛しい	6	退屈	4	ウンチャカ	7
窓	23	出る	28	暗い	6	単純	4	ずいぶん	7
悲しみ	22	変える	28	寒い	6	派手	4	とりあえず	7
犬	22	くる	27	甘い	6	必死	4	ゆっくり	7
先	22	思える	26	きみしい	6	平凡	4	わざわざ	7
思い	21	傷つける	26	ひどい	6	変	4	何一つ	6

表 3 自立語その他の延べ語数と異なり語数

	名	動	形容	形容動	副	感動	接続	連体	英語	その他
延べ語数	6,434	7,459	1,218	805	2,625	175	396	553	1,176	29,160
異なり語数	1,636	1,165	175	142	223	28	18	7	238	427

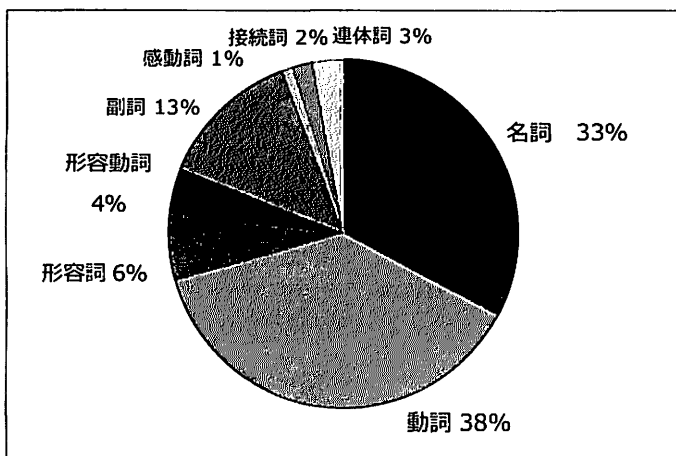


図 1 各品詞ごとの延べ語数の割合

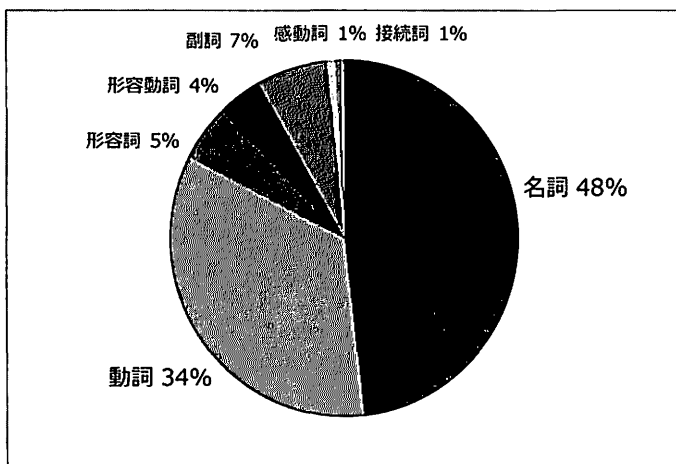


図 2 各品詞ごとの異なり語数の割合

表 4 アルバムごとの 119 語の調整頻度 (100 語あたり) (註 4)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	…	114	115	116	117	118	119
	自分	言葉	気持ち	場所	誰か	笑顔	世界	子供	神様	一つ	…	空	星	髪	月	光	口
君が笑	0.92	1.83	1.38	1.38	1.83	0.00	0.00	0.46	0.00	0.46	…	0.00	0.92	2.29	1.83	0.46	0.46
君は誰	0.83	1.65	2.06	0.00	0.83	1.24	0.00	0.00	0.41	0.83	…	0.00	0.00	0.83	1.65	0.00	0.41
宝物	0.77	0.77	1.54	0.77	0.39	3.08	0.39	0.00	0.39	0.00	…	0.77	0.39	0.77	0.77	0.00	0.00
SELF	4.05	1.35	1.69	0.34	1.69	1.69	0.68	0.34	0.34	1.01	…	0.34	2.03	2.03	0.34	0.00	0.00
PHARMACY	2.49	1.24	0.31	1.55	0.93	0.93	0.31	0.93	0.31	0.31	…	0.00	0.31	0.00	0.93	0.00	0.00
UNDERWEAR	0.59	2.67	3.56	2.37	0.89	0.30	1.19	1.19	0.30	0.00	…	0.00	0.00	2.37	0.59	0.00	0.30
Lovely	1.32	3.31	0.66	0.33	1.32	0.66	0.00	0.00	0.00	2.32	…	0.33	0.00	0.00	0.00	0.66	0.66
Cicada	2.55	2.55	3.28	0.00	0.36	0.36	0.36	0.36	1.09	0.00	…	1.46	1.09	0.00	0.36	0.36	0.73
太陽	5.47	2.74	0.91	0.30	1.52	0.30	0.00	0.00	0.30	0.61	…	0.30	0.61	0.30	0.00	0.00	0.30
Home	4.95	2.64	1.98	4.62	3.63	0.00	1.32	0.00	0.00	1.32	…	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
本日ハ	3.25	3.54	2.36	1.18	0.00	0.30	0.89	0.30	1.77	0.00	…	1.18	0.00	0.00	0.00	0.30	0.00
EXPLORER	5.13	0.81	0.54	2.70	0.27	1.62	1.35	3.78	1.35	1.35	…	0.54	0.00	0.00	0.27	0.54	0.00
DOWNTOWN	4.77	2.86	0.95	3.18	3.18	0.95	2.23	2.23	0.95	1.59	…	0.32	1.91	0.00	2.23	3.50	1.91
悲しみ	2.64	0.29	1.17	3.81	0.29	0.00	1.47	0.29	2.34	0.29	…	0.88	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00
Personal	4.43	1.38	0.83	1.38	1.94	1.66	2.77	0.28	0.00	0.83	…	1.94	0.55	0.00	0.00	1.66	1.38
不安	2.91	0.73	2.91	2.18	1.82	0.36	0.00	1.82	1.82	0.36	…	0.36	0.36	0.00	0.00	0.00	1.09
Heart	3.66	0.30	3.66	0.91	0.30	2.44	0.61	0.30	0.91	0.30	…	0.61	0.30	0.61	0.00	0.30	0.91

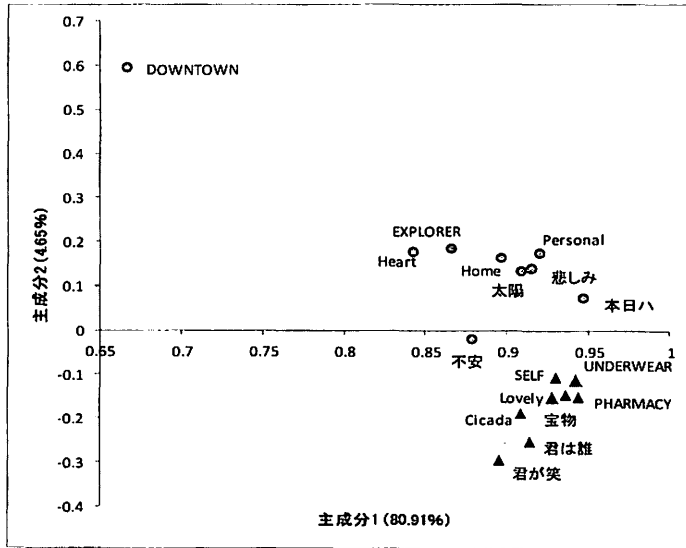


図 3 主成分得点のプロット (▲は 1999 年以前、●は 2000 年以降のアルバム)

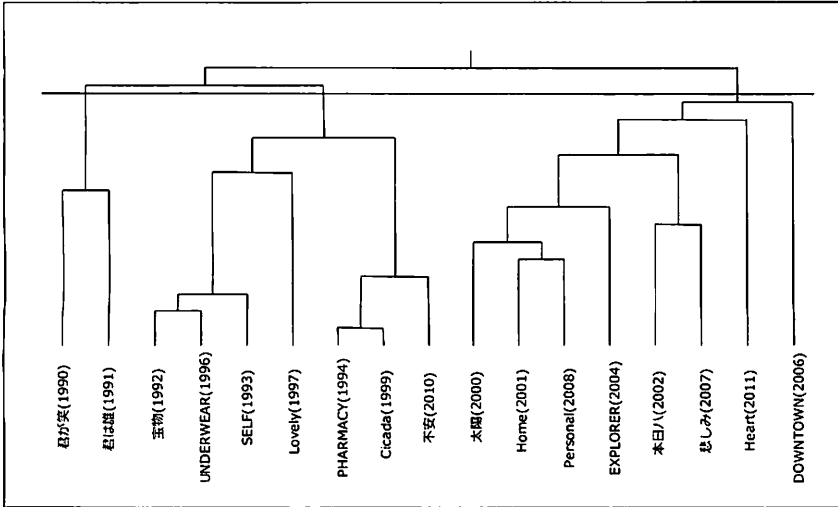


図4 高頻度 119 語による階層的クラスター分析の樹形図

次に、本稿の第2の主眼点であるアルバムの分類について、アルバムごとの119語の調整頻度表(部分)を表4に、また主成分分析の結果を図3に、階層的クラスター分析の結果を図4に示す。図3では横軸を境に大きく作品が2つの群に分かれている様子が見られる。便宜的に1999年までに発表されたアルバムを▲で、2000年以降に発表されたアルバムを●でプロットしてあるが、1999年までのアルバムは横軸の下側、第4象限に集まっているのに対し、2000年以降のアルバムは例外的な『不安の中に手を突っ込んで』以外は横軸より上に集中している。一方、図4の階層的クラスター分析の方では、カッティングポイント(横線)で区切られた3つのクラスターに大きく分かれている様子が見られる。左側の第1クラスターにはデビューアルバム(『君が笑うとき君の胸が痛まないように』)とそれに続く第2作目(『君は誰と幸せなあくびをしますか』)が属し、第2クラスターにはそれ以降第3作目(『君は僕の宝物』)から1999年の『Cicada』、そして『不安の中に手を突っ込んで』(2010)が含まれている。最後の第3クラスターには『不安の中に手を突っ込んで』を除く2000年以降から2012年現在までの作品が全て含まれていることがわかる。

4. 考察

この考察の部分では、主に多変量解析によって得られた結果についてその意義を検討していく。今回、階層的クラスタ分析によってクラスタを3つ抽出することができた。初期の3作のアルバムはタイトルから「君と僕」シリーズとしてまとめて扱われることが多いが、初期の2枚は独自のクラスタを形成し、3枚目の『君は僕の宝物』とは異なるという結果となった。これは次の槇原敬之自身の言葉からも裏付けられる：

「デビューしてからのアルバム3枚（『君が笑うとき君の胸が痛まないように』『君は誰と幸せなあくびをしますか。』『君は僕の宝物』）っていうのは、自分を取り巻く環境が変化していく中で制作されたものです。1枚目はアマチュア時代の総決算。まあ、ほかのアーティストの方たちも、ファーストって大体そうだと思う。そしてセカンドになって、こだわりも増える。せっかく槇原敬之の名前で出るものなら、例えば「ここは木にして、ここは漆喰で」みたいな、そんな設計図を自分自身で引きたくなってきたわけです」（別冊カドカワ編集部 2010:18）

（中略）「売れるって素晴らしい！」みたいなね（笑）。それで3枚目はホント、解き放たれるように作った。ここでひと心地ついた感じっていうかね。「こういうんだったらもっと頑張れる。ここまで突っ込んで作っていけるなら」。もうなんかバラ色っていうか、「そう、これだよー」って自分自身に言いながら作ってたのが『君は僕の宝物』なんです。

（別冊カドカワ編集部 2010:19）

「解き放たれるように作った」という言葉からも前の2作とは異なっていることがわかる。第1クラスタと他との相違はこれで明らかになったが、主成分分析ではっきりと示された2000年以前とそれ以降の相違はどうか。

槇原の歌詞の変遷について、音楽評論には次のような指摘が見られる：

(中略) ところで歌詞を読んでいると、1999年の9thアルバム『Cicada』より前と後では歌詞の濃度が相違している。『Cicada』より前は、(切ないけど) さわやかな恋心が歌われていた。しかし『Cicada』以降は恋愛につきものの苦悩や傷心といった負の面をふくめたラブソングが増え、それとともに歌詞の語彙が豊富になっていくのだ。

(町口 2005a:82)

町口はアルバムを『Cicada』より前とそれ以降に分類しているが、これは本稿の結果とは異なっている。さらに町口(2005b)は後半(1999年から2005年まで)のアルバムについて次のように述べている：

槇原敬之の『Cicada』より前のアルバムは「君」と「僕」のラブソングが主体で、『君』と『僕』—家族・社会—世界の3段階のうち、皮膚感覚でお互いを感じ取れる距離にいる「君」と「僕」、つまり「近景」が描かれてきた。そこには共同体的な対人距離である「家族・社会」といった「中景」はあまり言及されていない。また無限遠の彼方にある「世界」、すなわち「遠景」は抽象的な存在で、往々にして「君」と「僕」は「世界」の中心に存在するといった「近景」即「遠景」といったパターンだった。ところが「家族」をテーマとした楽曲を歌い「中景」を含んだことで、「世界」、つまり「遠景」も具体化し、歌詞の濃度も深まったと言えるだろう。

(町口 2005b:87)

さらに見崎(2005)も1999年以降2005年までの4枚のアルバムを評して、「ある一つの明確な質的変化が歌詞において見て取れる」とし、後半は『自分だけが救われればよい』(=自利)という“小乗モード”から、「他のみんなも救いたい」(=利他)という“大乘モード”への変化である」と述べている。これらの評論の是非はともかく、槇原敬之のアルバムは前半と後半というふうに大きく分けられるということが評論家の一致した意見のようである。これは今回主成分分析と階層的クラスター分析によって得られた結果ともほぼ一致して

いる。さらに、槇原敬之自身も次のように語っている：

ソニーに移籍して一発目の『Such a Lovely Place』ぐらいからかな？「恋愛のことだけじゃないんだ。もっともっと歌が欲しい場面がいっぱいあるんだ」って思い始めたのは。(中略) 個人的なことと言うと、近い友達の生き死になどもあって、我に返ったっていうのもこの頃なんです。あと30歳になったのもね。もうラブソングばかり歌ってられないっていうのはその少し前からあったけど、自分は歌手なのだからそれを究めるという選択もあった。ただ選ぶにしてもそのどちらかしかない。そんな時に実験的という申し訳ないですけど、『Such a Lovely Place』というのを思い切って書いてみたんです。もちろんそれまでも、「遠く遠く」にしたってそうだけど、ラブソングばかり書いてきたわけじゃないですけどね。でも、「もっと暮らしに根付いたテーマ」というか、それが書きたくなった。(中略) まだその時点では「人間そのものを歌う」とか、そこまでは全然いってないんです。その後、自分が逮捕されてからですね。そこから確実にパーッとそっちへ行ききつかけになったのは確かです。
(別冊カドカワ編集部 2010:21-22)

ここで述べられているように1999年の事件の後、「人間そのものを歌う」という方向へ一気に突き進んだという。では、1999年以前の前半(主に第2クラスターに属する作品群)と2000年以降の後半(第3クラスターに属する作品群)とでは具体的にどのような相違があるのだろうか。町口が述べているように、「君と僕」の恋愛以外に「家族や社会」などのテーマが増えているのであろうか、それは使用語彙に反映されていると言えるのだろうか。

先に示した17のアルバム全体の各品詞の高頻度語(表2)だけでは、それぞれのクラスターの特徴語は掴めないため、階層的クラスター分析で得られた第2クラスターと第3クラスターの高頻度語をあらためて比較してみよう。

表5は高頻度語30語を示したもので、両クラスターに共通して現れる語には網掛けがしてある。それ以外の語は各クラスターの特徴語(の一部)と考えて

よいだろう。第2クラスターには「恋」「2人」「好き」「愛」といった恋愛に関連する特徴語（伊藤 2002）が見られるが、それは第3クラスターにはないことがわかる。逆に第3クラスターでは「心」「生きる」「世界」「感じる」「信じる」など自分の人生を見つめ生きていくことに関連する語句が目立っている。

表5 2つのクラスターの高頻度30語比較

第2クラスター				第3クラスター			
抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
僕	343	知る	35	僕	485	街	46
君	318	幸せ	34	君	326	手	43
言う	67	好き	33	心	119	知る	43
今	62	胸	31	自分	115	気持ち	41
思う	62	街	30	人	107	食べる	39
人	54	一番	29	生きる	86	大事	39
見る	52	行く	28	思う	83	悪い	36
恋	45	愛	27	言う	79	感じる	36
自分	43	前	27	見る	67	世界	36
少し	43	今日	26	笑う	64	誰か	36
笑う	42	待つ	26	場所	60	目	36
気持ち	41	場所	23	今日	56	花	35
2人	38	雨	22	幸せ	55	見える	35
言葉	38	誰か	22	今	55	信じる	33
手	37	笑顔	21	言葉	48	前	31

町口が指摘していたように、1999年までのアルバムでは「君と僕の恋愛」という側面が強いということは言えそうであるが、同様に第3クラスターにおいても「僕」と「君」という語は高頻度で出現している。この2つの語は無特徴語（伊藤 2002）なのであろうか。恋愛でないとするれば、「僕」と「君」について、第3クラスターに属する歌詞では何が語られているのだろうか。

この点を明らかにするために、語の共起ネットワークを利用した。これは「出現パターンの似通った語、すなわち共起の程度が強い語」が線で結ばれたもので（樋口 2012）出現数の多い語ほど大きい円で、また関係が強いほど太い線で描画されている。図5では頻度20以上の自立語34語について、図6は頻度30以上の36語についてそれぞれ共起関係を示した。（註5）図5では「僕」と「君」が太い線で結ばれ強い共起関係があることが見て取れる。第2クラスターの「僕」は「幸せ」「一番」「言う」と共起し、また「君」は「言う」「思う」「好き」「行く」などと関連がある。一方、図6でも「僕」と「君」は強い共起関係にあるが、「僕」と共起するのは「生きる」や「今日」「今」といった言葉である。さらに「今」は「ありがとう」という言葉へつながっている様子が見られる。

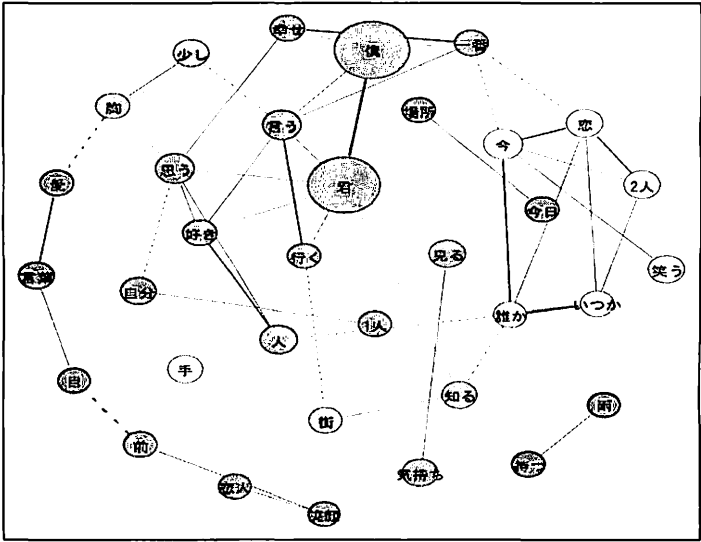


図 5 第 2 クラスタにおける語の共起ネットワーク (最低頻度 20 以上)

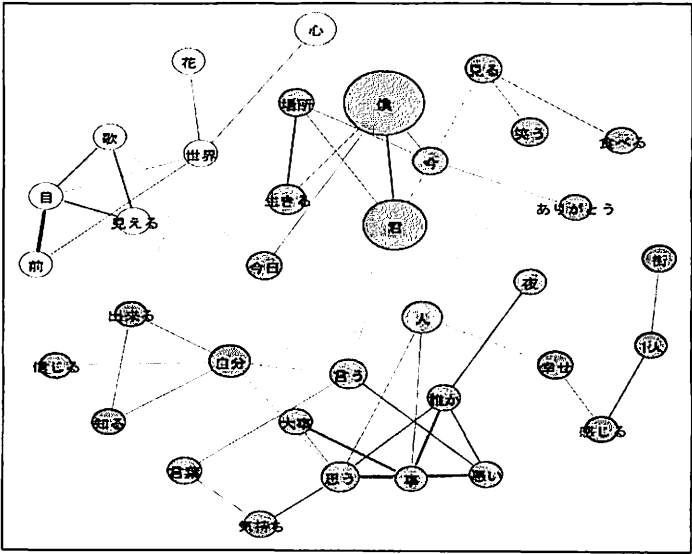


図 6 第 3 クラスタにおける語の共起ネットワーク (最低頻度 30 以上)

また、この図 5・6 では「僕」と「君」が中心になっていたが、「僕は+述語動詞」という連語関係で見ると表 6 のような違いが見られる（述語動詞の位置は「は」のすぐ右隣）。

表 6 第 2・3 クラスターにおける「僕は」に接続する述語動詞の比較

#2 「僕は__」		#3 「僕は__」	
思う	2	生きる	4 喜ぶ
違う	1	頑張れる	3 気付く
救う	1	言える	3 泣く
生まれる	1	思い知る	3 叫ぶ
飛べる	1	出会う	3 見る
抱える	1	問いかける	3 手放す
		歌う	2 登る
		頑張る	2 開く
		気づく	2 捕まえる
		言う	2 迷う
		解る	1 立ち止まる

表 7 第 2・3 クラスターにおける「君を」に接続する述語動詞の比較

#2 「君を__」		#3 「君を__」	
好き	5	見る	10
想う	5	見失う	3
知る	3	抱き上げる	3
忘れる	3	喜ぶ	2
思い出す	2	失う	2
待つ	2	見つける	1
愛せる	1	見つめる	1
覚える	1	好き	1
見かける	1	思う	1
見送る	1	傷つける	1
思う	1	捜す	1
思える	1		
守れる	1		
笑う	1		
笑わせる	1		
信じる	1		
抱きしめる	1		

第 3 クラスターでは第 2 クラスターに比べて主人公である「僕」が様々な表現を用いて多彩な活動を行っている様子が描かれていることがわかる。一方、「君」について、「君を」に接続する語を調べてみると表 7 のような結果となった。

第2クラスターではやはり「君を好き」や「君を想う」などの表現が多いが、第3クラスターでは視覚動詞「見る」に関連する動詞が多くなっていることがわかる。これは「君を好き」だったり「君を想う」といった行動などに現れる恋愛における相手への感情の強さを言い表す表現、言い換えれば主観的な表現とは逆に、客観的な対象として「君」という存在を「見ている」ということを示唆していると考えられることもできるだろう。このような「君」と「僕」の関係性の変化もクラスターが分かれる要因の一つとなっていると思われる。

5. おわりに

本稿では槇原敬之の17枚のオリジナルアルバムの歌詞を分析し、まず語彙の構造を明らかにした。今回の調査では延べ語数においても異なり語数においても動詞が名詞を上回っていること、また英語の歌詞がかなり含まれていることがわかった。また、頻度30以上の119語を用いた主成分分析では例外的なアルバム（『不安』）はあるものの、概ね1999年までのアルバムと2000年以降とははっきりと分かれること、また階層的クラスター分析では最初期の2枚のアルバムが1つのクラスターを成していることが明らかとなった。これらのクラスターは評論家の意見、また槇原自身の言葉ともほぼ一致していることがわかった。

最後に槇原敬之の言葉を引用して本稿を終えたい。表5で見たように、第3クラスターの特徴語にはそれ以前には見られなかった「心」と「生きる」があげられているが、彼の次の言葉はこの後期の作品のありかたを物語っている：

（中略）「ラブソングはしばらくお休みしよう」と決めました。きめないと、つい慣れた方向に行ってしまうので。決めてからは、できてくる作品がいい意味でも悪い意味でも「強い」というかね、耳にイテテテみたい。[いや、これぐらいでいいんだ]って、自分にそういういいながら作ったりしました。『太陽』というアルバムが、まずそういうものなんです。

（別冊カドカワ編集部 2010:23）

(中略) このアルバムのタイトル曲の「太陽」は、この 20 年間を振り返っても本当によくできた曲だあって自分で思います。一瞬のカタルシスみたいなことを汲み取るだけじゃなく、「今、生きてる」ということに呼応するような曲を作りたいという思いもこの曲ができたことで強まった。でもそんな曲なら、やがて歳をとっても、その人の中で新鮮であり続けるんじゃないかって思うし。(中略) でも、今を生きる人間として感じる希望とか不安、それに対して呼応する曲を作るということがライフワークになったらいいなってことから、きっと今後もブレないですよ。
(同上 2010:23-24)

謝 辞

本稿で用いた KH Coder の操作について、高頻度語を調整頻度にし、それをもとに R によってデンドログラムを描画する方法など懇切丁寧に指導してくださった KH Coder の開発者である立命館大学の樋口耕一先生にこの場を借りてお礼申し上げます。尚、当然のことながら本稿における分析の一切の責任は金城にあることを申し添えておきます。

註

- 1 2012 年 9 月現在、槇原敬之のオリジナルアルバムは 18 あるが、そのうち 1996 年に発売された『ver.1.0E LOVE LETTER FROM THE DIGITAL COWBOY』は全曲英語詞による作品であるため、今回の調査の対象外とした。
- 2 表の中で網掛けにした曲は歌詞がない、英語の歌詞、もしくは槇原以外の人物（と槇原）によって作詞されたものであるため、今回の調査対象外とした。
- 3 伊藤 (1999: 2000a: 2000b) のユーミンの歌詞の調査結果で延べ語数・異なり語数ともに名詞が動詞の割合を上回っている。なお、表 3 の名詞の項目には頻出の数詞（一人・二人など）や代名詞（僕・君）は含まれていない。
- 4 本稿ではアルバムタイトル名が長いものについては表や図で括弧内に示したような省略名を使用した：『君が笑うとき君の胸が痛まないように』（君が笑）、『君は誰と幸せなあくびをしますか。』（君は誰）、『君は僕の宝物』（宝物）、『SELF

PORTRAIT』(SELF)、『Such a Lovely Place』(Lovely)、『Home Sweet Home』(Home)、『本日ハ晴天ナリ』(本日ハ)、『LIFE IN DOWNTOWN』(DOWNTOWN)、『悲しみなんて何の役にも立たないと思っていた。』(悲しみ)、『Personal Soundtracks』(Personal)、『不安の中に手を突っ込んで』(不安)、『Heart to Heart』(Heart)。

5 本文では第2と第3クラスターにおける語の共起関係を示したが、参考までに第1クラスターの頻度8以上の自立語29語の共起ネットワークも示しておく。「僕」は「好き」や「笑う」などの語と共起し、第3クラスターの場合とはかなり異なることがわかる。

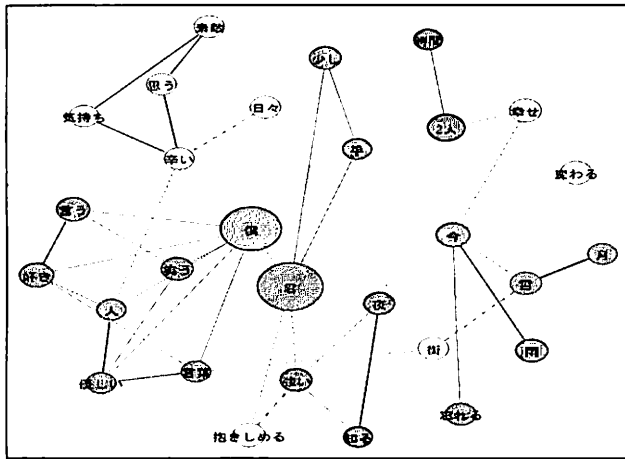


図3 第1クラスターにおける語の共起ネットワーク (最低頻度8以上)

参考文献

- 伊藤雅光 (1997) 「表記からみた松任谷由美の歌詞 (4) —歌詞とは何か—」『日本語学』16 : 78-87.
- 伊藤雅光 (1998a) 「ユーミンの言語学 20 パソコンがつくるユーミンソング (1)」『日本語学』17 (11) : 60-70.
- 伊藤雅光 (1998b) 「ユーミンの言語学 21 パソコンがつくるユーミンソング (2)」『日本語学』17 (12) : 81-92.
- 伊藤雅光 (1999) 「ユーミンの言語学 24 パソコンがつくるユーミンソング (5)」

- 『日本語学』18：78-85.
- 伊藤雅光（2000a）「ユーミンの言語学 30 パソコンがつくるユーミンソング（11）」『日本語学』19（2）：104-110.
- 伊藤雅光（2000b）「ユーミンの言語学 31 パソコンがつくるユーミンソング（12）」『日本語学』19（4）：102-109.
- 草間 恵子（2002）「現代歌謡曲の語彙研究 -- 最近 10 年のラブソングにおける考察」『外国語学会誌』(31): 135-149.
- 見崎鉄（2005）「槇原敬之は菩薩である。」別冊宝島編集部『音楽誌が書かない J ポップ批評 38』78-81.
- 鈴木直枝・山口孝志（2000）「流行歌の歌詞にみる言語の変遷：過去 34 年間のヒット曲を通して」『東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要』31：55-65
- 中野洋（1982a）「流行歌の語彙」『数理科学』20(1)：38-42.
- 中野洋（1982b）「流行歌の語彙」『講座 日本語の語彙 7 巻 現代の語彙』明治書院 257-307.
- 中野洋（1984）「流行歌（昭和 58 年）の語彙」『計量国語学』14（4）：176-181.
- 濱田美和（2005）「日本語学習の観点から見た日本の流行歌の語彙的特徴」『富山大学留学生センター紀要』4：13-28.
- 細谷舞・鈴木崇史（2010）「女性シンガーソングライターの歌詞の探索的分析」『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』195-202.
- 別冊カドカワ編集部(2010)『別冊カドカワ 総力特集 槇原敬之』カドカワムック No.339 角川マーケティング
- 町口哲生（2005a）「恋に恋するラブソングの時代：Before 1999」別冊宝島編集部『音楽誌が書かない J ポップ批評 38』82-84.
- 町口哲生（2005b）「生まれ変わってこの場所で：After 1999」別冊宝島編集部『音楽誌が書かない J ポップ批評 38』85-87.
- 水谷静夫（1975）「短い作品の語彙の量的構造」『計量国語学』72：1-12.
- 水谷静夫（1980）「流行歌の用語を数量的に見る」『科学朝日』40(10): 72-76.
- 山川欣也（2009）「歌謡曲のジェンダー：『わたし』の不在が意味すること」『長崎外大論叢』13: 217-232.

A statistical analysis of Noriyuki Makihara's lyrics: From the first album to the eighteenth album

Katsuya Kinjo

This paper tries to statistically analyze a Japanese singer and songwriter Noriyuki Makihara's original lyrics appeared in his seventeen albums from two view points. The first is to clarify the categorical ratio of the whole vocabulary. And the second point is to apply two cluster analyses (the hierarchical clustering and the centroid-based clustering) to see if these albums could form some clusters.

The results show that, (i) the number of verbs outnumbered nouns in both types and tokens, and (ii) the centroid-based clustering shows that the albums before 2000 and after 2000 are divided except one album, and (iii) the hierarchical clustering shows that the first two albums form one cluster, which could be supported by Makihara's own words. Moreover, it is shown that the third cluster in the hierarchical clustering contains such words as *ikiru* (to live) and *kokoro* (heart) which displays Makihara's ways of creating his lyrics after 2000.